

平成22年度 保護者の学校評価（学校全体に関するアンケート）分析

- 学校運営に関しては、どの項目も、90%程度の数値で、おおむね肯定的に捉えられている。
- 保護者の大部分は、全体的な生徒像として、学校行事や生徒会活動に活発に取り組み（96%）、部活動にも活発に参加して（95%）、毎日の学校生活を明るく楽しく充実して過ごしている（91%）と考えているが、反面、意欲的な学習に十分取り組んでいる（57%）と考えている保護者が6割弱である。
- 評価が十分でなかった（70%に満たない）項目は、学習に関する項目の「意欲的に学習に取り組んでいる」（昨年度よりは4%増加している。）だけとなった。子ども達が、十分に意欲的に学習に取り組めていないと答えている保護者が、43%もいることから、まだ学校や教員に対して、もっと指導や学力の補充を充実してほしいという願いや思いがあるものと思われる。
- 昨年度と比べて、顕著に評価が伸びた項目は、昨年度、70%に満たなかった「学力の補充に向けて取り組んでいる」（昨年度より11%増加している。）「興味・関心のもてる授業を行う工夫をしている」（昨年度より9%増加している。）「わかりやすい授業を行う工夫をしている」（昨年度より7%増加している。）である。このことから、前年度の反省を生かして学校が取り組んだことを評価していただいたと考えられる。
- 教員の授業の指導力にかかわる項目に対して、昨年度と同様に高い評価をいただいた。しかし、これに慢心することなく、さらにわかりやすい授業（76%）や興味・関心のもてる授業（75%）、授業以外の学力の補充（70%）に重点的に取り組み、授業を改善していく必要がある。
- 今年度も「子ども達が困ったことや悩みごとなどを相談できる体制ができている」という質問項目に対して肯定的に捉えている保護者が72%と昨年度と同じであった。教育相談については、年度当初に「困ったときの相談一覧」を配布したり、「スクールカウンセラーだより」等で相談の窓口を紹介している。来年度も学年だより等で継続的にPRを行なう一方、担任、学年教員、教育相談担当教員等で組織的に相談活動を行っていることをていねいに説明して理解していただく必要がある。
- 「一人一人の適性や希望を生かした適切な進路指導が充実しているか」という項目に対して、昨年度と同じに高い評価（74%）をいただいた。しかし、来年度も1、2年次における面談等で、現在の子どもの様子だけでなく、進路等について話をする時間を確保し、体験的な活動（職場体験学習・職場訪問・上級学校訪問等）に合わせて、学活等で、系統的、継続的な進路指導を充実していく必要がある。
- 生活指導全般については、基本的な生活習慣を身に付ける指導（87%）、社会道徳や規範意識への指導（83%）と、おおむね90%に近い保護者が肯定的に捉えているが、「良い」と答えている層は全体の5分の1程度である。来年度も学校全体としての一枚岩となった組織的な指導やよりきめ細かな指導、そして、教えるべきところはしっかりと教え、規範意識や学校内外のルールを徹底させる指導などを通して、充実を図る必要がある。また、思いやり等、心を育てる指導（81%）は昨年度より1%増加した。今まで以上に道徳や各教科、学活、総合的な学習の時間、授業等の指導はもとより、日々の学校生活の様々な場面を通して、より一層の指導の充実を図る必要がある。
- <良い>または、<どちらかというが良い>と答えている保護者の割合は、14項目で、昨年度の数値を上回ることができた。しかし、5項目では昨年度の数値を下回ってしまった。その項目をしっかりと意識して来年度に向けて、この数値が向上するように、改善を図る必要がある。
- 回収率は昨年度97%から今年度98%とさらに高くなった。来年度も保護者の方に、実施する意図をていねいに説明し、一層の理解と協力を得ていく。